

令和7年度 「公共」学習指導計画

学科	全学科	コース		学年	1	履修	必修
教科	公民	科目名	公共	単位数	3	時数	105
教科書名(発行所)	高等学校新公共(第一学習社)			副教材(発行所)	テーマ別資料公共(とうほう)		
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎知識を修得し、実生活において活用できるように理解する。 ・公共的な空間である社会の一員として、幸福、正義、公正などに着目し、多面的・多角的に物事を考察・表現しようとする力を養う。 ・学んだことを身近な問題と関連づけ、主体的に他者と協働しながら、課題発見・思考・判断・解決しようとする力を養う。 						

(注) 評価の観点、Ⅰ「知識・技能」Ⅱ「思考・判断・表現」Ⅲ「主体的に取り組む態度」を示す。

学期	月	内容のまとめ	単元 (実習項目)	単元の目標 (具体的目標)	評価の観点			配当 時数	主な評価方法
					Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ		
1	4	公共	公共の罪	選択・判断するための手がかりとなる概念や理論、重要な視点を学ぶ	○	○	○	10	観察法 問答法 テスト法
	5	政治	公共的空間における基本原理 法や規範の意義と役割	人間の尊厳と平等、個人の尊重について学び、法や規範のなかにもどのようにいかされているのかを学ぶ	○	○	○	10	観察法 問答法 テスト法
	6	政治	契約と消費者の権利・責任 司法参加の意義	社会に主体的に参加する私たちにどのような社会的責任が伴うのか、不当に権利を侵害された場合、どのように対応したらよいのかを学ぶ	○	○	○	10	観察法 問答法 テスト法
	7	政治	政治参加と公正な世論形成	地方政治・政治参加と公正な世論の形成などに関わる現実社会の事柄や課題について理解する	○	○	○	8	観察法 問答法 テスト法
2	8	国際	国際社会と国家主権	国際社会がどのように成り立っているのか、その原理について学ぶ	○	○	○	4	観察法 問答法 テスト法
	9	国際	日本の安全保障と防衛 国際社会の変化と日本の役割	日本をとりまく安全保障問題と国際社会のなかではたす役割について学ぶ	○	○	○	10	観察法 問答法 テスト法
	10	経済	雇用と労働問題 社会変化と職業観	社会のなかで生きていく私たちをとりまく労働問題や職業観について学ぶ	○	○	○	10	観察法 問答法 テスト法
	11	経済	市場経済の機能と限界 金融のはたらき	市場経済のしくみと金融の役割について学ぶ	○	○	○	10	観察法 問答法 テスト法
	12	経済	財政の役割と社会保障	財政が私たちの生活とどのように関わっているのか、社会保障のあり方をふくめて学ぶ	○	○	○	10	観察法 問答法 テスト法
3	1	経済	経済のグローバル化	国際経済に関わる現実社会の事柄や課題について理解する	○	○	○	10	観察法 問答法 テスト法
	2	探究活動	持続可能な社会づくり	地球環境問題、資源・エネルギー問題、生命倫理、情報、国際社会の課題から二つテーマをえらび探究活動をおこない、発表できるようにする	○	○	○	10	観察法 問答法 テスト法
	3	探究活動	持続可能な社会づくり	地球環境問題、資源・エネルギー問題、生命倫理、情報、国際社会の課題から一つテーマをえらび探究活動をおこない、発表できるようにする	○	○	○	3	観察法 問答法 テスト法

105

【観点別評価】

評価項目・対象	講義	演習	実験・実習	定期考査	実技テスト・小テスト	ノート・レポート	課題・作品	発言・プレゼン	検定・資格	観点別合計
Ⅰ 知識・技能	20			70		10				100 %
Ⅱ 思考・判断・表現	20			60		20				100 %
Ⅲ 主体的に取り組む態度	20			10		70				100 %
評価の重点	①授業に他者と共に意欲的に取り組むことができたか ②授業で学んだことを理解し、思考・判断・表現しようとしているか ③提出物を期限までに提出することができたか									

令和8年度 「地理総合」学習指導計画

学科	全学科	コース		学年	2	履修		必修
教科	地理歴史	科目名	地理総合	単位数	2	時数		70
教科書名(発行所)	高等学校新地理総合(帝国書院)			副教材(発行所)	新編フォトグラフィア地理図説2026(とうほう)			
目標	自然地理および人文地理の学習に地図を有効活用して知識の修得に努め、地理的視野を養いつつ、課題の探求や地誌的考察ができるようにする。							

(注) 評価の観点、Ⅰ「知識・技能」Ⅱ「思考・判断・表現」Ⅲ「主体的に取り組む態度」を示す。

学期	月	内容のまとめ	単元 (実習項目)	単元の目標 (具体的目標)	評価の観点			配当 時数	主な評価方法
					Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ		
1	4	地図や地理情報システムでとらえる現代世界	地球儀と地図 地図と地理情報システム 現代世界の国家と領域 地図から見る国内や国家間の結びつき	地図の読図を通して、地図や地理情報システムの役割や有用性を理解する。 現代世界の中で、日本は世界の国々どのように結びついているか、位置や分布に着目しながら、考えることができる。	○	○	○	4	観察法 問答法 テスト法
	5	国際理解と国際協力	世界の地形と人々の生活	世界各地にみられる地形は人々の生活とどのように関わっているのか理解する。	○	○	○	8	観察法 問答法 テスト法
	6	国際理解と国際協力	世界の気候と人々の生活	気候の違いは、人々の生活にどのような影響を与えているのかを理解する。	○	○	○	8	観察法 問答法 テスト法
	7	国際理解と国際協力	世界の産業と人々の生活 世界の宗教、民族、言語と人々の生活	産業の発展は人々の生活にどのような影響を与えてきたのかを理解する。 宗教・民族・言語は人々の生活にどのような影響を与えているのかを理解する。	○	○	○	4	観察法 問答法 テスト法
2	8	国際理解と国際協力	東アジア 東南アジア インド	各国の歴史背景や現代の情勢が人々の生活・文化にどのような影響を与えているのかを理解する。	○	○	○	8	観察法 問答法 テスト法
	9	国際理解と国際協力	中央アジア・西アジア 北アフリカ サハラ以南アフリカ	各国の歴史背景や現代の情勢が人々の生活・文化にどのような影響を与えているのかを理解する。	○	○	○	8	観察法 問答法 テスト法
	10	国際理解と国際協力	ヨーロッパ ロシア	各国の歴史背景や現代の情勢が人々の生活・文化にどのような影響を与えているのかを理解する。	○	○	○	8	観察法 問答法 テスト法
	11	国際理解と国際協力	アメリカ合衆国 ラテンアメリカ オセアニア	各国の歴史背景や現代の情勢が人々の生活・文化にどのような影響を与えているのかを理解する。	○	○	○	8	観察法 問答法 テスト法
	12	地球的課題と国際協力	人口問題 食糧問題 都市・居住問題	持続可能な社会を目指して、地球的課題を解決するために、どのような取り組みが必要かを考える。	○	○	○	4	観察法 問答法 テスト法
3	1	地球的課題と国際協力	感染症・衛生問題 資源・エネルギー問題 地球環境問題	持続可能な社会を目指して、地球的課題を解決するために、どのような取り組みが必要かを考える。	○	○	○	4	観察法 問答法 テスト法
	2	持続可能な地域づくりと私たち	日本の自然環境 災害と防災 自然災害への備え	日本には変化にとんだ地形や気候があり、様々な自然災害の対応に努めてきたことを理解する。	○	○	○	2	観察法 問答法 テスト法
	3	持続可能な地域づくりと私たち	生活圏の調査と地域の展望	生活圏の課題を調査し、解決に向けた取り組みと私たちが参画できる地域づくりについて考察する。	○	○	○	4	観察法 問答法 テスト法

70

【観点別評価】

評価項目・対象	講義	演習	実験・実習	定期考査	実技テスト・小テスト	ノート・レポート	課題・作品	発言・プレゼン	検定・資格	観点別合計
Ⅰ 知識・技能	20			70		10				100 %
Ⅱ 思考・判断・表現	20			70		10				100 %
Ⅲ 主体的に取り組む態度	20			10		70				100 %
評価の重点	①授業に意欲的に取り組むことができたか。 ②授業で習ったことをしっかりと理解しているか。 ③提出物をしっかりと出すことができたか。									

令和7年度 「歴史総合」学習指導計画

学科	全学科	コース		学年	3	履修	必修
教科	地理歴史	科目名	歴史総合	単位数	2	時数	70
教科書名(発行所)	詳述歴史総合(実教出版)			副教材(発行所)	新詳歴史総合(浜島書店)		
目標	歴史の諸事象について理解する活動を通して、諸事象の因果関係・相関関係などに社会的な見方・考え方を働かせる力を養い、事実立脚性と論理整合性に基づいて歴史を考察することができる。						

(注) 評価の観点とは、Ⅰ「知識・技能」Ⅱ「思考・判断・表現」Ⅲ「主体的に取り組む態度」を示す。

学期	月	内容のまとめ	単元 (実習項目)	単元の目標 (具体的目標)	評価の観点			配当 時数	主な評価方法
					Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ		
1	4	近代化と私たち	近代化への胎動	18世紀のアジア諸国とヨーロッパ諸国の経済が互いに与えた影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、18世紀のアジア諸国における経済活動の特徴、アジア各地域間の関係、アジア諸国と欧米諸国との関係などを多面的・多角的に考察し、表現させる。	○	○	○	6	観察法 問答法 テスト法
	5	近代化と私たち	欧米の市民革命と 国民国家の形成	産業革命や国民国家の形成の背景や影響などに着目して、主題を設定し、欧米諸国の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、政治変革の特徴、国民国家の特徴や社会の変容などを多面的・多角的に考察し、表現させる。	○	○	○	8	観察法 問答法 テスト法
	6	近代化と私たち	アジアの変容と日本の近代化	産業革命の影響、中国の開港と日本の開国の背景とその影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、アジア諸国と欧米諸国との関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現させる。	○	○	○	8	観察法 問答法 テスト法
	7	近代化と私たち	帝国主義の時代	帝国主義政策の背景、帝国主義政策がアジア・アフリカに与えた影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、帝国主義政策の特徴、列強間の関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現させる。	○	○	○	8	観察法 問答法 テスト法
2	8	国際秩序の変化や 大衆化と私たち	第一次世界大戦と大衆社会	第一次世界大戦の推移と第一次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響、日本の参戦の背景と影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、関連付けたりするなどして、第一次世界大戦の性格と惨禍、日本とアジア及び太平洋地域の関係や国際協調体制の特徴などを多面的・多角的に考察し、表現させる。	○	○	○	4	観察法 問答法 テスト法
	9	国際秩序の変化や 大衆化と私たち	第一次世界大戦と大衆社会	第一次世界大戦前後の社会の変化などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、関連付けたりするなどして、第一次世界大戦後の社会の変容と社会運動との関連などを多面的・多角的に考察し、表現させる。	○	○	○	6	観察法 問答法 テスト法
	10	国際秩序の変化や 大衆化と私たち	経済危機と第二次世界大戦	経済危機の背景と影響、国際秩序や政治体制の変化などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、各国の世界恐慌への対応の特徴、国際協調体制の動揺の要因などを多面的・多角的に考察し、表現させる。	○	○	○	4	観察法 問答法 テスト法
	11	国際秩序の変化や 大衆化と私たち	経済危機と第二次世界大戦	第二次世界大戦の推移と第二次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響、戦後の国際秩序の形成が社会に及ぼした影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、第二次世界大戦の性格と惨禍、大戦下の社会状況や人々の生活、日本に対する占領政策と国際情勢との関係などを多面的・多角的に考察し、表現させる。	○	○	○	6	観察法 問答法 テスト法
3	12	グローバル化と私たち	冷戦と脱植民地	地域紛争の背景や影響、冷戦が各国の政治に及ぼした影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、日本の高度経済成長の背景と影響、地域紛争と冷戦の関係、第三世界の国々の経済政策の特徴、欧米やソヴィエト連邦の政策転換の要因などを多面的・多角的に考察し、表現させる。	○	○	○	4	観察法 問答法 テスト法
	1	グローバル化と私たち	多極化する世界	アジアの諸地域の経済発展の背景、経済の自由化や技術革新の影響、資源・エネルギーと地球環境問題が世界経済に及ぼした影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、市場経済のグローバル化の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察し、表現させる。	○	○	○	4	観察法 問答法 テスト法
	2	グローバル化と私たち	グローバル化と現代世界	冷戦の変容と終結の背景、民主化や地域統合の背景と影響、地域紛争の拡散の背景と影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、冷戦終結後の国際政治の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察し、表現させる。	○	○	○	8	観察法 問答法 テスト法
	3	授業のまとめ	問いの探究活動	学習をふりかえり、高校の歴史学習に必要な歴史学習の基本的な技能や学び方を考えさせ、その見方・考え方が現代社会においてどのような意義を持つかを考察し、表現させる。	○	○	○	4	観察法 問答法 テスト法

70

【観点別評価】

評価項目・対象	講義	演習	実験・実習	定期考査	実技テスト・小テスト	ノート・レポート	課題・作品	発言・プレゼン	検定・資格	観点別合計
Ⅰ 知識・技能	20			70		10				100 %
Ⅱ 思考・判断・表現	20			70		10				100 %
Ⅲ 主体的に取り組む態度	20			10		70				100 %
評価の重点	①授業に意欲的に取り組むことができたか ②授業で習ったことをしっかりと理解しているか ③提出物をしっかりと出すことができたか									